

## 1 - 4 花咲～浦河の年平均潮位差の変動

### Differences of Annual Mean Sea Level between Hanasaki and Urakawa

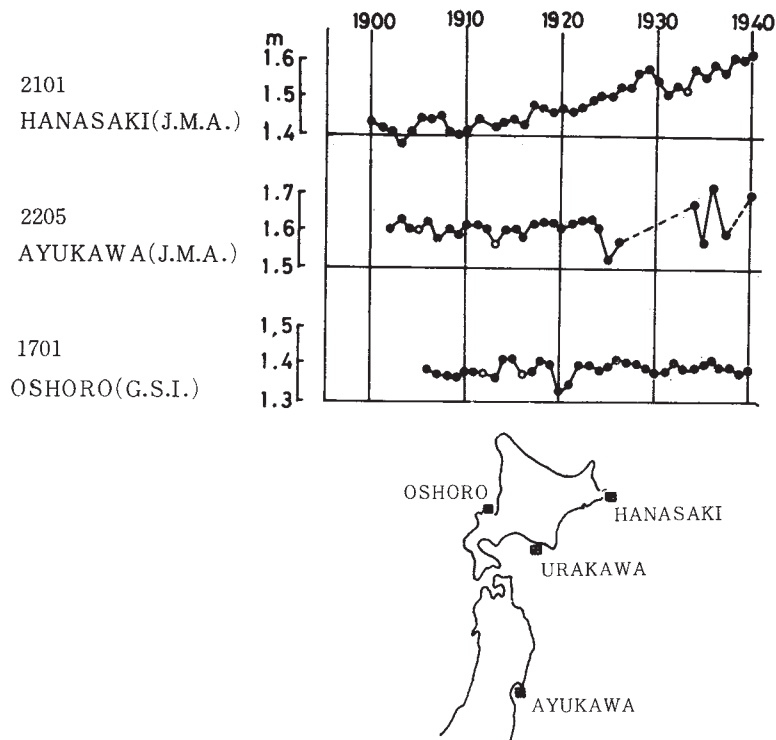
国土地理院・海岸昇降検知センター  
Coastal Movements Data Center,  
Geographical Survey Institute

1973年6月の根室沖地震に関連して震源にもっとも近い花咲検潮所（気象庁）における年平均潮位の変動と、浦河～花咲の年平均潮位差の変動を調べた。

すでに、釧路、根室地方は地震前にかなりの沈下を示めしていることが水準測量の結果から報告されているが、この結果は、花咲、釧路の検潮記録からも裏づけられる。

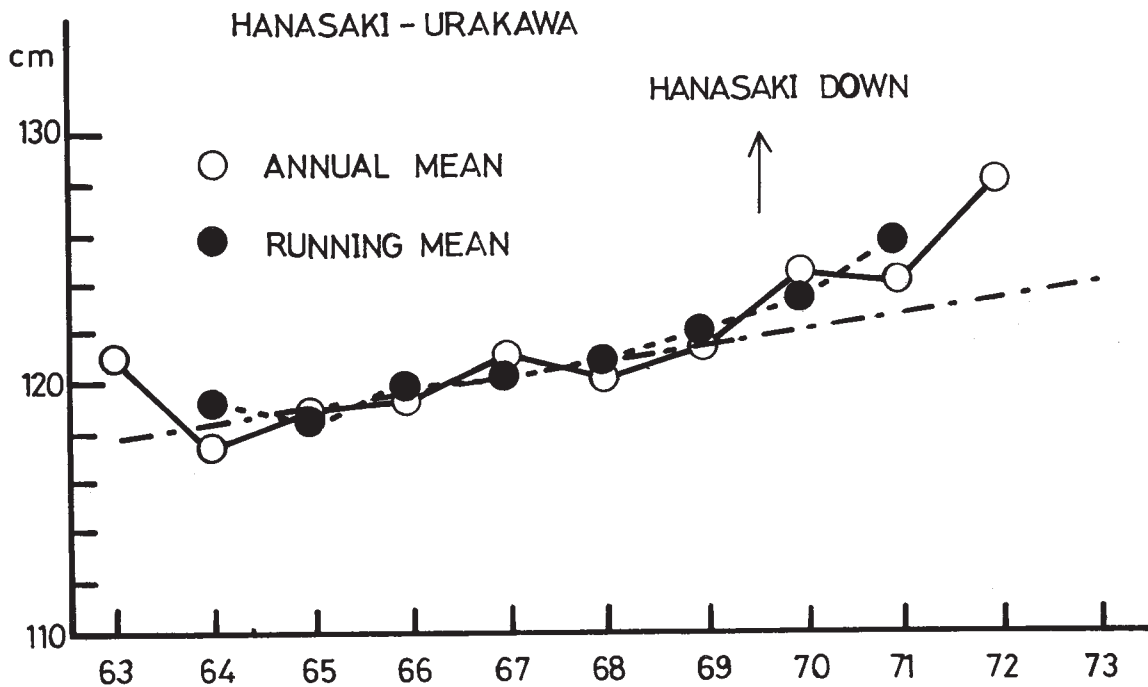
第1図は、花咲検潮所の1900年から1940年までの年平均潮位を示めたものである。この40年間に花咲の潮位は20 cm強上昇している。同期間における忍路、鮎川の潮位がほとんど横ばいであることを考慮すると、根室半島は年間5 mmの沈下をつづけていたと推定される。また、釧路検潮所は1947年に開設されているが、釧路港では近年、地盤沈下が進行しているため、最近の潮位は地殻変動の資料としては不適當である。一応、1947～1960年には、地盤沈下が顕著でないとして、この年の平均年沈下率を求めると、6 mm/yearとなるが、これには、東北から北海道にかけて、大平洋岸一帯に見られる一般的な潮位上昇を考慮する必要がある。

以上の背景のもとに、根室半島の最近の上下変動を浦河と花咲の平均潮位の差で求めたのが第2図である。全体的に見て、浦河に対して花咲は沈下の傾向にあるが、この傾向は、1968年から大きくなり、最近、4年間で7～8 cmと推定されるのが注目される。釧路との差をとらなかったのは前述した釧路の地盤沈下を考慮したためである。



第 1 図 花咲, 鮎川および忍路の年平均潮位の変化 (1900 ~ 1940)

Fig. 1 Changes of annual mean sea level at Hanasaki, Ayukawa and Oshoro



第 2 図 花咲～浦河の年平均潮位差の変動

白丸 = 年平均潮位差

黒丸 : 年平均潮位差の 3 年間移動平均

Fig. 2 Differences of annual mean sea level between Hanasaki and Urakawa